

(特活)バングラデシュと手をつなぐ会 会報誌

# Milon

June 2025 No.156



## バングラデシュ現地での地域コミュニティづくり ～インフォメーションセンターの役割とは～

総会報告 南福寺チャリティバザー バングラデシュ料理教室 在宅ホスピスフェスタ

写真:インフォメーションセンターで学生たちと交流  
イラスト:インフォメーションセンターの活動の様子(現地作成)





代表あいさつ

## はじめに ～この世界でわたしたちは～



### バングラデシュと手をつなぐ会代表 ニノ坂 保喜

2025年度の総会が無事に終了しました。今年は会場にも新しい方達が参加し、活発な議論が交わされました。やはり、お互いに顔を合わせて語り合うことは、心が通い合う、という感じがします。ありがとうございました。オンラインで参加した方も、また総会には参加できなかったけれど、手をつなぐ会のことを応援してくださっている方たちにも、感謝の気持ちを届けます。

さて世界では、気候危機に伴う自然災害が頻発しているだけでなく、人間の心が引き起こす戦いが各地で相変わらず続いています。

バングラデシュ国内では、昨年の政変で、学生をはじめ多くの犠牲者が出ました。その結果、当時の首相シェイク・ハシナは辞任しインドに逃亡し、ユヌス氏が主席顧問として国内の安定と公正な選挙を目指して改革を進めています。しかし、混乱はまだ続いているようです。国民合意委員会が形成され、各政党などが参加し、今後の国家運営のあり方を検討しているようです。私たちもこれらの動きをしっかりと見つめていきたいと思います。

世界に目を向けると、気候変動（気候危機）に伴うと思われる災害が各地で起こっています。また、ウクライナ、ガザ、スーダン、コンゴ、それにミャンマーなど各地で争いが続き、多くの命が失われています。

アメリカでは、新政権の呆れた政策（USAIDの縮小、解体？）で、国際協力活動は世界的に危機に瀕しています。

その中で、先日亡くなった、ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領の、思想、行動を思い起こします。「国を治めるものの生活レベルは、その国の平均でなければならない。」「貧乏とは、欲が多すぎて満足できない人のことだ。」の言葉が、心に響きます。彼はそれを実践してきた人でした。私たちにとっても一つの希望だと言えるでしょう。

さまざまな困難を抱える状況の中で、私たちが何をすべきかをあらためて深く考えましょう。手をつなぐ会の会員と、協力・支援してくれる仲間たち、さらに地域の人々とのつながりを広げながら、語り合って、思索を深め、幅広く活動を進めていきたいと考えます。

## 目 次

【代表あいさつ】はじめに ～この世界でわたしたちは～

【地域コミュニティづくり】 牟田 壽

【カラムディ村だより】 ラフマン モクレスール

【総 会 報 告】 ニノ坂 保喜 田島 寛

【イベント報告】 ・ 1/26 南福寺チャリティバザー 蒲地 純  
・ 2/9 バングラデシュ料理教室 榎原 亮也  
・ 3/19 在宅ホスピスフェスタ 野田 景子

【事務局だより】 ・ 行事予定 ・ 新会員紹介 ・ 会計報告など



# 地域コミュニティづくり ～インフォメーションセンターの役割とは～



牟田 壽

バングラデシュと手をつなぐ会会員

ブリヂストンの **ちょボラ募金** による支援を得て、当会の現地パートナーの NGO ショングダニスタを通じて、日本の公民館のような施設、インフォメーションセンター（以下 IC と略す）をバングラデシュのカラムディ村で 2014 年 9 月に建設開始しました。



ショングダニのスタッフや村民たちによる建設資材の調達、労働奉仕など熱心な努力によって 2017 年 11 月に完成しました。



その歴史をここで少し振り返ってみました。

と思います。

## ■ IC を建設するに至った経緯

2013 年小生は現地をラフマン先生（当会副代表）と二回訪問し、ショングダニ病院の 2 階を仮宿舎としてショングダニスタッフたちと交流しました。



その 2 階の一角には

日本からの支援でミシンが複数台置かれていて細々と主婦達による裁縫作業が行われていました。

また別の小ホールではダンスなど青年達による様々な集いが企画されていました。彼らは読書会をしたり、ローカル新聞を作成したり、地域おこしの活動に熱心に取り組む姿が印象的でした。

彼らとの話し合いの中で「部屋が小さく患者に気をつかい、思い通りの活動ができない」「活動に必要な装備品がない」など多くの問題が指摘され、バングラデシュのために何かしたいと思いました。そして思いついたのが小生が働いていたブリヂストンとその社友会に資金支援をお願いすることでした。



飯塚での募金活動

た。それに加え、バングラデシュ写真展開催と募金活動を地元の飯塚で行うことでした。

帰国後、IC の目的、現地の人たちの活動状況を資料にまとめ、ラフマン先生と一緒に上京し、現地の事業支援のためにブリヂストン本社にて陳情を行いました。

その結果、「継続的に支援していきます」という力強い言葉をいただき、ちょボラ募金を原資に IC 建設計画に着手しました。

さっそくショングダニスタッフと連絡を取りながら、建設場所の選定・必要資材・設計図・建設見積・活動計画などを策定し、各種事業が始まりました。

## ■ IC での各種事業

・主婦達のための縫製訓練



ちょボラ募金でミシン 10 台導入

始めました。

女性自立のために職業訓練をおこない、現金収入が得られるよう女性を対象にミシン教室を

・図書室及び巡回移動図書システムの整備



IC 図書室での読書の様子

当時は読書の習慣が定着しておらず、ほとんどの学校には図書室がなく、書店もありませんでした。



## ・IT 技術訓練のための環境整備



インターネットと PC 導入

都会との情報格差の解消のために WiFi 環境を整え、パソコン教室を始めました。

・運営費として、学生を除く、利用者から月々一定の会費を徴収します。それに加え、自立に向けて地域の裕福な人から定期的、あるいは必要に応じて募金を集め、運営に当てます。

## ■将来構想

### ・地域に開かれた図書室

インフォメーションセンターの2階に本屋を作り、書籍を手にする機会を多くしたり、近くの学校の生徒に授業の一環として図書を活用してもらいます。

### ・若者たちのための交流拠点

勉強のために村を離れている高校生や大学生がいます。また仕事のために村を離れている人もいます。これらの人々の帰省時に文化的に時間を過ごす場所として開放していきます。

## ・子供達の文化、レクリエーション活動拠点づくり



お絵かきを楽しむ子どもら

屋内での絵画教室や屋外でのサッカーなどスポーツを楽しむ機会を設けています。



現地での始球式の模様

地元飯塚の卓球クラブ員に声かけし、基金を募り、卓球台を贈呈しました。

・インターネット環境のさらなる充実  
バングラデシュでもパソコンやインターネットのスキルがなければ就職ができない状況になっており、都会との IT 格差を無くすためにもネット環境の充実が急がれます。

田舎にとどまっても国内外の情報を手に入れ、就活や農産物の価格などの情報を入手することで、生活向上が期待できます。

あらゆる年齢層の人々が IC に集まり、日常的な情報交換ができ、地域発展に貢献できることを目指します。

### ・農業従事者への支援

カラムディ周辺は農業が主な産業ですので農民のために学びの場を提供します。セミナー等を開催し、専門家から知識を得る機会を設け、農民を支援していきます。



小学5年生の保健指導

・保健衛生教室  
コロナ感染症をきっかけに地域で衛生意識をたかめるための活動をショングニ病院と連携して、活動しています。

### ・広報活動

センターの若者たちがショングニの活動状況を報告する小冊子を3ヶ月毎に定期発刊



## ■運営方法

・ショングニスタッフが全面的に責任を持ちますが、利用者が主役であるので、様々な年齢や職業の人々から委員を選び、運営委員会を形成し、センターを運営していきます。

### ちょボラ募金

ブリヂストン社員有志の募金を基金とし、従業員やその家族、定年退職者が参加する社会活動団体に対し、資金面から支援を行う制度です。ちょボラ募金を通し、従業員の社会活動を支援・促進するとともに、直接社会活動に参加できない従業員に対しても、募金を通じて社会への貢献を可能にしています。

この社内募金制度は 2021 年から「BSmile (ピースマイル) 募金」として、継承されています。

## □カラムディ村だより



ラフマン・モクレスール  
手をつなぐ会副代表

### ■交通の便



現地訪問中の大木元代表

便は、とても悪かったです。

私たちの時代、特に1980年頃は、田舎道のぬかるみがひどい所では、靴やドレス・ズボンを脱いで歩いてました。その当時は交通の

2000年頃から外国への出稼ぎが増え、経済的に豊かになっていきました。ほぼ子ども全員が学校に通うことができるようになりました。

バイクや自動車を買う人も出てきましたが、道路はまだ整備されていなかったの、台数は余り増えませんでした。最近では家庭のほぼ半分は車やバイクを所有するようになっていきます。便利にはなりましたが、**交通事故**は増えてきています。



ダッカ行き長距離バス

首都のダッカとカラムディ村間の320kmを長距離直行バスが走るようになりました。今年からカラムディ病院のそばにも本数はまだ少ないですが、バスが停車するようになりました。本数はこれから増えると思います。ダッカへの移動時間が短縮され、より便利になり、医療サービスへのアクセスも良くなってきています。

### ■交通安全



ショングニススクールから幹線道路までは約1キロありますが、そこまでの細い道をバスは走っています。この地域

には、生徒数、約2000人のショングニススクールの他に女子高校・短大カレッジやガンニ市役所があり、交通量はかなり多いです。

この道路では自家用車、バス、自転車なども頻繁に行き交っており、事故が増えています。



登校時の交通安全の呼びかけ

生徒たちの通学時の安全を確保するためにショングニススクールの教職員や学生らが登校時の朝8時から30分ほど校門の両側に立ち、交通ルールを守るよう呼びかけています。

生徒はこの活動を通じて、地域の人達との親交も深めています。これを見習って、ほかの学校でも同じように交通安全指導を行うようになり、交通事故を未然に防いでいます。

生徒たちの通学時の安全を確保するためにショングニススクールの教職員や学生らが登校時の朝8

**交通事故:** バングラデシュにおける交通事故被害者推移は、近年増加傾向にあります。2024年の死者数は7294人で、前年比11.8%増加しました。負傷者数も5.4%増の1万2019人となっています。

### ■BRAC(バングラデシュ農村振興委員会)



50周年を迎えた BRAC

数日前にショング病院の近くに、BRAC銀行が開設されました。

バングラデシュの貧困層を対

象とし、無担保かつ小額の資金を融資し、経済的自立を支援するため金融サービスを提供します。将来、普通の銀行のように誰にでもサービスを提供してくれることを願っています。

BRACは、バングラデシュで貧困削減を目的として設立されたNGOです。現在では、バングラデシュ最大規模のNGOとして、マイクロファイナンス、教育、保健、水と衛生など、多岐にわたる分野で活動しています。1974年から小口の貸し付けを開始しました。

バングラデシュ初のモバイルファイナンス事業者で、業界リーダーであるbKash社の総発行株式51%をBRAC銀行が保有しています。



## □総 会 報 告

5/11に開催された通常総会において、正会員により議案が審議・議決され、すべて承認されました。

議決権行使した正会員28名の内訳：

委任票数12 表決書面票数4 会場出席者数8

オンライン出席者数4 ※正会員総数65名



### バングラデシュと手をつなぐ会代表 二ノ坂 保喜

2025年度総会が、5月11日(日)に開催されました。会場のののさかクリニック2階に一般者も含め15名が、オンラインでも15名が参

加してくれました。田島議長の総会成立宣言の後、昨年度の事業・活動の報告・ショングニの活動報告・決算報告がなされました。続いて25年度の活動方針・事業計画・ショングニの活動計画・予算案が提示され、それぞれに賛成多数

で承認されました。会員の皆さん、ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

いくつか気がついた点を列記しておきます。

ショングニ病院を軸とする保健医療(ヘルスプロモーションプログラム)は、病院の活動はもちろんですが、看護学校の教員や学生たちが積極的に村に出て行って活動しています。現地では自然な流れとして、活動の発展と言えるでしょうが、日本側から見ると、ちょっと驚きでした。また出産や産後の検診の減少もみられます。一方で糖尿病患者の増加は、食生活の変化が背景にあるのでしょうか。バングラデシュの急速な社会、経済の変化と共に、村

の変化も見ていきたいと思います。その意味では、村での活動として、麻薬撲滅キャンペーンや自殺防止・毒物啓発キャンペーン、交通事故防止の啓発活動なども地域全体の生活向上を目指すものとして、評価していきたいものです。

また、看護学校の活動計画として、「グループで村に出かけて看護学生と地域住民が対話を重ね、良好な関係を保つよう努めます」とあり、開校8年目を迎える看護学校が地域に定着しつつあることが伺えます。



総会の後半は、二ノ坂の「バングラデシュと手をつなぐ会のあゆみ」と、事務局の山田さんの「地球

温暖化問題」の二つのプレゼンテーションを行いました。「あゆみ」では、前代表の大木さんとラフマンさんの出会いから始まった会の歴史を振り返りました。いろんな出来事がありましたが、新しい会員たちも含めて、改めて会の歴史を共有することができたと思います。

### 海面上昇が原因で加速する浸食



バングラデシュのボラ島で道路の残骸にたたずむ村の住人

「地球温暖化」では、現在進行の渦中にある大きな問題として、また国全体が海面スレスレのバングラデシュにとっても重大な課題であることを感じました。

巻頭言で述べたように、世界では自然災害、人による災害が止まることなく広がってきています。とても私たちには手に負えないと考えがちになりますが、私たちは、しっかりと世界に目をとどかせながら、自分たちの身の回りの活動を着実に進めたいと考えます。

新年度も、皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



**バングラデシュと手をつなぐ会会員**  
**田島 寛 歯科医師**

理事の田島寛と申します。普段は、歯科訪問診療を行う開業医として、地域社会にわずかながらでも貢献できるように努力しております。

今回の総会では、議長の任を賜り、つたない進行でご迷惑をおかけした点もあるかと存じますが、皆様のご協力を頂いて無事総会を終えることができましたことを、心から御礼申し上げます。

事業の成果や計画などを総会中の短時間では、なかなか善し悪しを判断することは困難かと思われます。



ベンガル語から日本語へ通訳するラフマン副代表

「償い」と「対等」が当会の基本的姿勢を貫き、意味づけているのではないかと私は、考えております。この点についてご興味を持たれた方は是非当会活動に参加して頂きたいと思っております。



ザフォル氏

して頂きました。

この発表で、とりわけ注目を集めたのが、「ヘルスプロモーション事業」でした。健康や保健について地域住民の意識を高めるために家庭訪問を行う当事業が、ショングニ病院の職員だけではなく、近隣の学校の先生や生徒が主体となって行われているということを初めて聞き、私たちは驚きました。

ショングニだけではなくカラムディ村のコミュニティを巻き込んで課題を見つけ、解決していこうとする力があることを知り、安心しました。このような自立力を更に高めるべく、現地と結んだオンライン合同理事会でアイデアを出しながら、現在の事業の改善やブラッシュアップができるのではないかと大いに期待しております。

当会の事業収支において、単年度の赤字額が大きいことのご指摘を受けましたが、これについては経費削減の努力を続けながら、会の活動をより広く知ってもらい賛同して頂ける方を増やす努力をして参りたいと思います。



現地 NGO においては、自らの力で課題解決をする力がついてきていることをとても心強く思います。経済成長が著しいバングラデッシュの現状からすると、文字通り「手をつなぐ」という日本と対等な関係性が将来、築かれ、もしかすると日本側が経済的支援を受けるかもしれません。

また、経済的なことだけではなく、カラムディ村と当会が末永く信頼や友好関係を維持して、この小さ



な素晴らしい関係が世界中に広まっていくことを願っております。

今後とも皆様のご支援・ご指導のほど宜しくお願い致します。



## □イベント報告

### ■1/26 南福寺チャリティバザー



手をつなぐ会会員  
蒲地 純

1月26日(土)、[南福寺](#)でバザーがありました。去年は息子と2人で参加しましたが、今回は二人の子どもと親族を連れて参加しました。お天気にも恵まれて日が差すと暖かく感じられました。

私事になりますが、去年を思い返すと、いったい何をしていたのか分からないほど、時の流れの

早さを感じます。下の子供は0歳でしたが、長男の毎日の保育園送り迎え、公園巡り、引っ越しに仕事復帰など、日々追われていました。幸いなことに病気やケガがなく、今年また南福寺バザーに来られたことに感謝しています。

バングラデシュは今どうしているのでしょうか。

私の中では、遠くの情報を集めるようなアンテナを

はる力が弱くなり、今、見えている範囲で家族を守り自分を守るために、周囲に目をこらすばかりです。空の先では繋がっているのにとっても遠く感じられます。南福寺の星祭りとはバザーを通してバングラデシュの事を考え、何か少し



でも役に立っているのだろうかと思う反面、バングラデシュと手をつなぐ会で出会った方々とまたお会いできる時間ができた事を嬉しく思うばかりです。



今年もバングラデシュの紅茶や民芸品などを皆さんにたくさん購入して頂きました。「この前、美味しかったからまた紅茶を買います」という方もいらっしゃいました。

南福寺の星祭りではお弁当にショウガ湯、餅まき、福引にぜんざいな



どを振る舞って頂きました。今回はお坊様からの警策の喝も頂いて、また今年へ向けて前進ある

のみです。

続けて行くことは力なのだと思います。また来年の南福寺バザーへ参加できますように。

[南福寺](#): 高野山真言宗「南福寺」(福岡市中央区)は毎年1月に星祭り(厄払い節分祭)を開催しています。

### ■2/9 バングラデシュ料理教室



子どもたちと作ったエスニック料理  
榎原 亮也

エスニック料理に興味があった私にバングラデシュ料理教室の募集を妻が見つけてくれたのがきっかけで初めて参加させて頂いたのが昨年。



今年は参加募集のメールを頂き、子どもたちにも声をかけてみました。すると二つ返事で「行きたい」と言っただけで、応募し、参加させて頂くことになりました。

当日までは「他にも子どもいるかな?」「どんな人達と作るの?」と不安と期待が入り混じった様子でしたが、いざ行ってみると、すんなり参加者の一員になれたようでした。





講師のヌレンさん、バン格拉デシュと手をつなぐ会の方々、参加者の方々が優しく自然に接してくださったお

かけだと思います。

特に同じ班の参加者の方が親身に子どもたちをサポートしてくださったので、生き生きと料理を楽しんでいました。



レシピ内容説明やヌレンさんの教え方も分かりやすく、今回のレシピの一つである「オレンジライス」(バスマティライスとスパイスを使ったデザー

ート)は味も作り方も初めて体験するものでした。このオレンジライスはバン格拉デシュでは甘いミルクボールというものと一緒に結婚式に出されるものとか。



もう一つのレシピの「チキンとひよこ豆のカレー」は日本のカレーと作り方が異なり、どちらかという炒めものに近く、スパイスが効いたとても美味しいカレーでした。バン格拉デシュでは家庭によって、ちょっと違う工程で作られたり、好みでショウガをもっと入れたりするといったお話も聞きました。



ヌレンさんのバン格拉デシュのお話

今回この料理教室参加を通じて、料理はもちろん、参加者の方々と交流、そしてバン格拉デシュのお話から、一度

も行ったことのないその国に勝手に思いをはせてみたりと、親子共々とても貴重な経験をさせて頂き

ました。また子どもたちは最近興味を持っていた料理がより一層好きになったようです。機会がありましたら是非また参加させて頂きたいと思います。



## ■3/19 在宅ホスピスフェスタ



事務局 野田 景子

3月19日(日)アクロス福岡にて、『在宅ホスピスフェスタ 2025』が開催され、当会もパネル出展し、会の紹介および募金の呼びかけを行いました。フェスタでは、オープニングでシャナさんのオカリナ演奏があり、その澄んだ音色に毎回、心が癒されます。

その後、『在宅ホスピスボランティア養成講座』を

# 在宅ホスピスフェスタ 2025

## コミュニティで つむぐ 在宅ホスピス

わたしにもできることがある

人生最後の時を住み慣れた我が家(地域)で過ごすために...

**日時** 3月9日(日) 10:30~16:30

**会場** アクロス福岡4F 国際会議場 福岡市中央区天神 1-1-1

**第1部** 10:30~12:30

- 在宅ホスピスボランティア紹介のビデオ上映
- パネルディスカッション 「わたしにもできることがある ~在宅ホスピスボランティアの活動~」

**WEB 同時開催**

**参加無料**

**第2部** 13:30~15:00

- 在宅ホスピスを語る会 in 福岡 (在宅看取りのお話)
- 相談・体験コーナー
- 在宅ホスピスに関する展示コーナー
- ポスターセッション

イベントの詳細は裏面をご確認ください

お問い合わせ: 緩和ケア支援センターコミュニティ TEL 092-805-8306

主催: 福岡県 福岡市 福岡市在宅ホスピス推進委員会  
後援: 福岡県医師会、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西日本社、九州厚生新報社

終了した方のお話が、ビデオレター形式で3例あり

ました。ボランティアになってからの熱い思いが語られていました。

午後は、父親を家で看取った家族、特に娘さんと訪問看護師さんとの繋がりを美しい映像とともに紹介されていました。



当会は毎年パネル出展だけの参加ですが、今年はパネル紹介の時間も盛り込まれ、当会も二ノ坂代表に説明をしていただきました。

足を留めてしっかりと見てくださる方々がおられ感謝しています。

皆さんも一度足を運んでみませんか。特に在宅介護を考えている方には、とてもためになるイベントだと思います。



## □事務局だより

### ■2025年度行事予定

- ・9月 バングラデシュとのオンライン交流会主催
- ・10/5(日) 五ヶ山オカリナコンサート主催(佐賀県神埼郡吉野ヶ里町 五ヶ山豆腐レストラン)
- ・10/5(日)~11日(土) 世界ホスピス緩和ケアデーにパネル出展(にのさかクリニック)
- ・11/2(日) モスク体験ツアー主催(福岡市東区福岡マスジド アンヌールイスラム文化センター)
- ・11/9(日) さわら地域わいわいひろば共催(にのさかクリニック)

- ・1月 南福寺チャリティバザー ブース出店(福岡市中央区南福寺)
- ・2月 バングラデシュ料理教室主催(福岡市健康づくりサポートセンター あいれふ)
- ・3月 在宅ホスピスフェスタにパネル出展(アクロス福岡)

### ■新会員紹介

- ・正会員 河野なるみ(学生会員)
- ・賛助会員 藤本信宏



### ■会計報告

事務局 末岡智子

#### 【2024年度の主な収支】

##### ▼収入

- ・正会員費 369,000 円
- ・賛助会員会 396,000 円
- ・受取寄付金 3,689,120 円  
ミロン募金(月定額)  
ブリヂストン(BSmile 募金)
- ・受取助成金 100,000 円  
九州地域NGO活動助成金(真如苑)
- ・受贈品売上 38,400 円
- ・バザー等売上 15,895 円
- ・行事参加費 52,750 円  
モスク体験ツアー  
バングラデシュ料理教室
- ・その他収益 36,624 円

##### ▼支出

- ・人件費 2,084,688 円
- ・家賃・光熱費 579,257 円
- ・支払寄付金 3,110,300 円  
シヨングニ病院  
インフォメーションセンター  
ジャパニ小学校



◆募金のご協力ありがとうございました。  
(2024年12月~2025年5月)  
敬称略/順不同

#### 【ミロン募金】

秋吉美千代(日本セラピューテック協会)、有吉準子、飯野孝子、碓道子、石田陽子、市田敬子、平山正明(ウエルフェアネット)、大木ひろみ、大澤友二、小川信、押野圭子、帯田輝幸、鐘ヶ江寿美子、鐘ヶ江康子、金子貴美代、上潟口麻里子、蒲地純、川内恵美子、吉瀬恭子、草場耕二、久保田千代美、國光登志子、倉光剛郎、倉光東昭、古賀カツ子、五反田千代、小森重己、権藤説子、栄小知子、貞刈賜代、佐藤純子、柴田須磨子、重橋亨、白石信子、末岡智子、末次奈保子、鈴木崇世、瀬尾康子、関根悠紀子、副島タカ、高嶋裕二、竹末龍也、田島寛、多々野須美子、立場美枝子、谷口純子、田村賢二、塚原晃子、道本実保、特定非営利活動法人たんかく、長野洋子、中野朝恵、中村サワ子、ニノ坂富士子、野副美喜、野田景子、濱田絹子、濱田民子、原紀子、廣田恵津子、福岡比佐子、訪問ボランティアナースの会キャンナス湘南、細野容子、牧瀬千里、松添仁、松田純子、三坂眞紀子、溝上明子、牟田壽、元田晶子、安浪加余子、山田榮香、有限会社けやき、ラフマンモクレスール、訪問看護リハビリステーションはる、和田節子

#### 【募金】

八木良子、久能はるこ、茂呂塾保育園、久米隆、杉本潔、古賀カツ子、有吉準子、白倉容代、太田英明、曾場尾雅宏、竹末龍也、幸田あけみ、緑川啓一、武田正勝、中川佳子、吉岡正和・夏予子、林田直子、中原妙代、久保千春、今泉幸男・ゆみ子、米本千春、永田佐保子、徳田英弘、岡崎万寿喜、重橋亨、山崎麻子、南原かつ子、吉松慶子、小野田桂子、川原由美・惇司、藤吉礼子、安田ふさ代、山下久代、馬場キミ子、松雪幹一、河村富美子、河内英一、熊谷紀子、渋谷枝美、草野美恵子、東いずみ、畠山万千、伊東美紀、

大原房子、上野恭子、山口龍彦、中園久美子、西田真紀、鬼束次男、谷藤正人、入江住子、牟田壽、穂波の里クリニック三浦正悦・大石春美、待鳥信昭、内兼久和子、越智吉郎、福岡友の会、井手喜怒子、谷山玲子、石口房子

#### 【募金箱設置協力】

にのさかクリニック、シーベスト野芥店、さわらスイミング、かも川薬局野芥店、はぴね福岡野芥、なかよし眼科、高砂園、グリーンビレッジテニスクラブ、春風薬局、FLAP 宮浦事務所、大木整形・リハビリ医院、岡村ツタエ、グループホームあおい、なごみの家、白熊園、佐田裕一、南福寺、料理教室、筑紫丘中学校、辰巳源三郎、地域生活ケアセンター小さなたね

#### 【募金に添えられたメッセージ】

✿活動の一部にして下さい。応援しております。  
✿バングラデシュの会の皆様、これからも頑張ってください。

たくさんのご協力、本当にありがとうございました。  
ます。心から感謝申し上げます。



バングラデシュと手をつなぐ会では、現地NGO「ションダニ・ションスタ」とともに、バングラデシュ西部のメヘルプール県・カラムディ村やその周辺地域等で、1989年から《教育》《保健医療》《生活向上》の分野で支援活動を行っています。

## ❧ 事業内容 ❧

### ● 現地（バングラデシュ）での活動

- ① 教育（ジャパニ小学校、奨学金制度、ションダニスクール）
- ② 保健医療（ションダニ病院、ションダニ看護学校、健康教室）
- ③ 生活向上（インフォメーションセンター）



### ● 国内での活動

- ① 総会（毎年5月）、理事会（毎月1回）による活動方針の決定や運営
- ② 会報誌『ミロン』を年2回、6月・12月に発行
- ③ 現地訪問の実施、報告会実施、報告書作成
- ④ バングラデシュ料理教室、チャリティバザー、チャリティコンサートなどの開催
- ⑤ 出張講座や各種イベントでのブース出展などにより、活動紹介

特定非営利活動法人バングラデシュと手をつなぐ会

〒814-0132 福岡市城南区千隈1丁目16-25

ウェンディハイツ 303号

☎092-407-7701 Fax092-407-7702

email: [info@tewotunagukai.com](mailto:info@tewotunagukai.com)

<https://tewotunagukai.com>

<https://www.facebook.com/tewotunagukai>



手をつなぐ会の活動全体の支援

ゆうちょ銀行口座 01720-2-10442

特定非営利活動法人

バングラデシュと手をつなぐ会

ミロン募金（バングラデシュ現地支援）

毎月の定額振替

お問い合わせください

## 編集後記

## Milon

バングラデシュの経済成長とともに移動手段が牛車から高速バスへとこの35年間で大きく変化していることを編集しながら改めて感じた。遠かった首都ダッカが高速バスで簡単に行けるようになり、便利になると同時に交通事故や生活習慣病・精神疾患も日本の後を追うように増えているカラムディ村。これからどのような未来が村人を待ち構えているのだろうか。（やまじい）

会 報 名 ミロン 156号 2025年6月発行  
 ※「ミロン」は、ひとつになる、手をつなぐという意味のベンガル語です。  
 発行責任者 ニノ坂 保喜  
 （バングラデシュと手をつなぐ会 代表）  
 表紙・監修 小畑 麻乙  
 編集実務担当 山田 英行  
 校正担当 末岡 智子